今日から始める
自然観察
食べたのは誰？花から推理しよう！

箕輪 義隆（みのわ よしたか）
科学イラストレーター

動物が生活する中で残した痕跡（こんせき）を“フィールドサイン”と言います。丁寧（ていねい）に観察すれば誰（だれ）がそれを残したのか、そこで何をしていたかを知ることができるのです。今回は、冬から春にかけて、鳥が花に残すフィールドサインをご紹介します。

サザンカの花びらの点々

写真（左）の茶色の点々はメジロの足跡です。イラスト（右）のように爪を立てたことで花びらが傷つき、変色したり穴が開いたりしています。痕跡が下側の花びらに集中していることにも注目です。

メジロやヒヨドリの舌はブラシ状になっています。

花びらを観る

ちぎられたボケの花びら

ちぎられたボケの花びら（矢印）がヒヨドリの食痕です。ヒヨドリはいろいろな植物の果実を食べる姿がよく見られますが、花や新芽、葉なども好みます。花を根元から摘み取って、まるごと飲み込むこともあります。

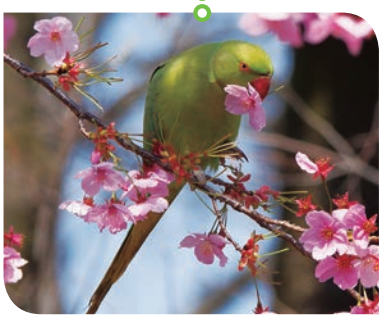
食べ方の特徴（とくちょう）を観察

鳥たちが食物を求めやってくる場所では、食痕や足跡、フンなどのフィールドサインを観察することができます。花の蜜（みつ）は一部の鳥たちにとって大切な食物になります。身近に見られる鳥の中ではメジロとヒヨドリのほか、スズメやシジュウカラ、コゲラなどが花の蜜を好みます。

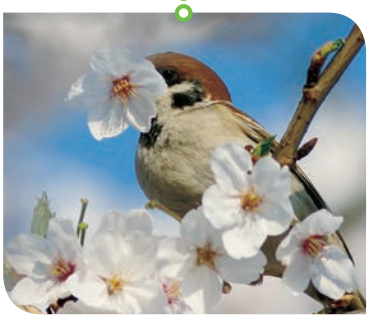
寒い冬、ツバキやサザンカは大きな花を咲かせています。メジロはこれらの花を訪れると、細長いくちばしを花の中央に差し入れ、先端（せんたん）がブラシ状になった舌を使って吸蜜します。花の周りに適当な枝などの足場がない場合は花びらにつかまるため、その部分が傷つけられ茶色く変色してフィールドサインとなります。ツバキやサザンカの蜜はヒヨドリにも好まれますが、この鳥は花びらや雄（お）しべまで食べることもあります。

春になるとサクラに、蜜を好む鳥たちがやって来ます。メジロは花から花へ飛び回って吸蜜しますが、この時くちばしや顔に付いた花粉を運ぶ役割を果たしています。一方、スズメはサクラの花を根元から摘（つ）み取って蜜を吸

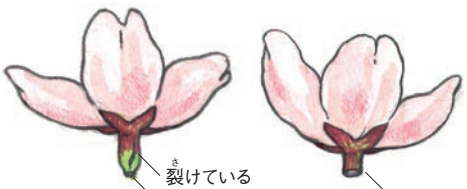
落ちたサクラの花



外来種のワカケホンセイインコも、サクラの花を切り取って蜜を吸います。スズメの食痕と似ています。また、しばしば枝を折り取って片足でつかみ、まるで焼き鳥を食べるように花を摘み取ることもあります。



スズメの太いくちばしは、花の奥まで差し入れるのには不向きなのか、スズメは花を摘んで根元側から蜜を吸います。蜜を吸い終わった花は捨てられるため、木の下にはいくつもの花が落ちています。



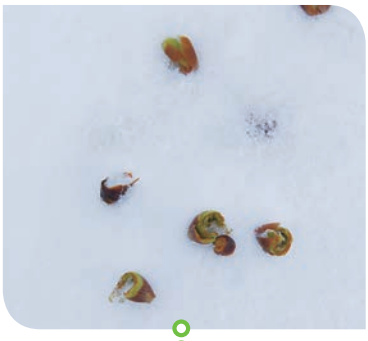
ワカケホンセイインコの食痕　**スズメの食痕**

ガクの切り口に注目!

スズメとワカケホンセイインコがサクラの蜜を食べた跡は、花の切り口から見分けることができます。

木の下を観る

落ちたサクラの鱗片



冬、サクラの木に飛来したウソは、冬芽の中から“花芽”を選んで食べます。同じ枝先についている“葉芽”には見向きもしません。花芽を切り取ると花芽を包む外側の鱗片を捨て中身だけを食べるため、地面には鱗片がたくさん落ちています。

QUIZ

桜の木の下に落ちていた茶色いかたまりは鳥のフン。中には、おしべの“葯”や花びらなど植物の破片が入っていました。これは一体誰のフンでしょうか?

①メジロ
②ヒヨドリ
③スズメ

▶答えは35ページ

い、用が済んだ花をその場に捨てて行きます。メジロのように花の受粉を手伝うことなく蜜だけをもらうこの行動は“盗蜜”と呼ばれています。木の下に落ちた一輪まるごとの花は、スズメが盗蜜したことを示す特徴的なフィールドサインです。スズメ以外にもニュウナイスズメやシジュウカラが似たような食痕を残します。また、外来種のワカケホンセイインコもサクラの蜜を好んで食べることが知られています。

お花見に出かけた時は、ぜひ足元にも注意を巡らせてください。花がたくさん落ちていたら、樹上で鳥たちが蜜を吸っているかもしれません。

このページは、筆者の方に教育用のコピー配布をご了解いただいております（商用利用不可）。http://www.nacsj.or.jp/katsudo/kansatsu/ から PDF ファイルがダウンロードできます。自然観察にご活用ください。